

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆景気動向指数、9月は3カ月ぶり上昇 判断「下げ止まり」据え置き

・内閣府が発表した9月の景気動向指数(速報値)は足元の経済状況を示す一致指数(2020年=100)が114.6と前月比で1.8ポイント上昇。3カ月ぶりの上昇。指数を基に機械的に決める基調判断は「下げ止まり」で据え置いた。投資財出荷指数や鉱工業生産指数が全体を押し上げ。半導体製造装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置が好調だった。

◆「市場予想超え」企業が6割に、4～9月純利益

・2025年4～9月期の業績が株式市場の想定を上回って推移する企業が目立つ。人工知能(AI)向けなどデジタル投資の拡大や円高一服、強みの製品の販売増を背景に、全体の6割の企業の純利益が市場予想を上回った。トヨタ自動車や富士通、任天堂などが上振れ額上位に入った。今回の業績上振れペースが今後も続くのかが焦点になる。

◆10月末の外貨準備高、3カ月連続増加 米長期金利の低下で

・財務省が発表した10月末の外貨準備高は1兆3473億ドル(およそ207兆円)だった。9月末と比べて61億ドル(0.5%)増。増加は3カ月連続。米国の長期金利が低下し米国債の時価評価額が上がった。外貨準備高のうち外国債券などの証券は9893億ドルと、9月末から14億ドル増。米国の10年債利回りは9月末の4.151%から10月末に4.078%に下がった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆リフォーム市場、6年ぶり減少に転じるも7兆円規模を維持

・住宅リフォーム・紛争処理支援センターが公表した2024年の「住宅リフォーム市場規模」の推計によると、増築・改築工事費および設備などの修繕維持費の合計が7兆円(前年比0.14%減)となり6年ぶりに減少。増築・改築工事は4700億円で同2.1%減少、設備などの修繕維持費6兆5300億円で横ばい。「広義のリフォーム市場規模」は8兆2800億円。

◆新築戸建て価格最高8667万円 10月東京23区、都心高級物件が押し上げ

・不動産調査会社の東京カンテイが発表した10月の新築小規模戸建て住宅の平均希望売り出し価格は東京23区が前月比2.9%高い8667万円。調査を始めた2014年4月以降の最高値を2カ月連続で更新。前年同月比では17.5%上昇。8月(4.4%高)や9月(10.6%高)と比べて拡大。平均価格は1億7997万円で、前年同月比62.6%高だった。

◆建設業の給与額2%増 夏季賞与は9.3%増—9月勤労調査

・厚生労働省が公表した2025年9月分の「毎月勤労統計調査」結果によると、建設業(事業所規模5人以上)の月間現金給与総額は39万2288円、前年同月比2.0%増加。決まって支給される所定内給与は34万1617円(0.5%減)、残業手当や休日出動手当などの所定外給与は2万5796円(10.9%増)、特別に支払われた給与は2万4875円(37.7%増)。

《 注目商品 》

■シャープ、新FIT対応の蓄電池制御サービスを開始

・クラウドHEMSサービス「COCORO ENERGY」において、今年10月1日に開始した新FIT制度(固定価格買取制度)に対応するエネルギーマネジメントサービスとして、AIを使った蓄電池制御の提供を開始。AIが日中の消費電力量を予測して必要な分だけ充電。



■パナソニック 健康を支援するバスルーム、電気式床暖房+平手すりを搭載

・システムバスルーム「BEVAS(ビバス)」から、電気式床暖房を備えた「ヒートセーフstyle」の提案を開始。超高齢社会における住まい手の安心と健康に対応するため、浴室空間を「住宅の中でできる生活習慣支援づくり」の場としても定義。安心感やあたたかさをテーマに開発。



■永大産業、リビング・廊下に適したフルフラット収納

・リビングや廊下など生活動線に馴染む収納製品として「エフエフウォール」を発売。壁と扉がフラットで枠が見えないノイズレスな「開き戸」と、棚板設置が容易な「内部収納」をラインアップ。開き戸はプッシュオープン仕様で、取手のないフルフラットデザインを採用。

